

# あさか外来通信



H29.12月号

## 妊婦さんと 歯科疾患

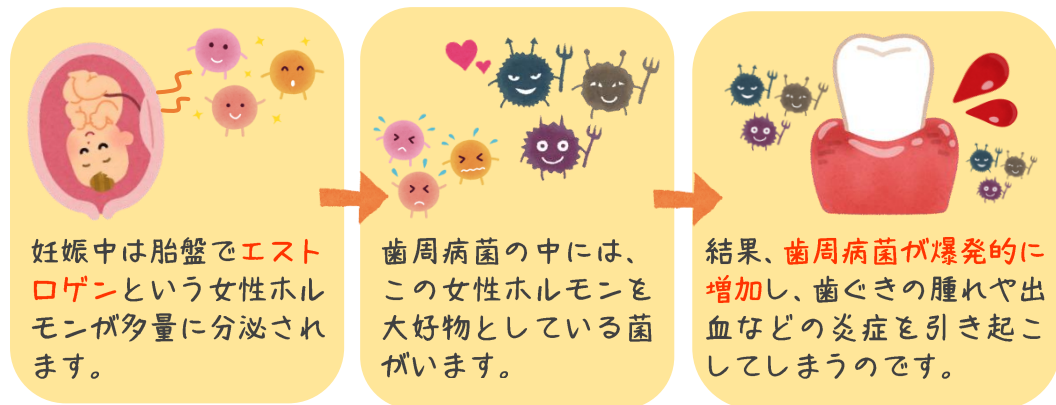


妊婦歯科健診は  
必ず受けましょう♪

妊娠中に歯周病になったり虫歯が痛み出したりしても、「レントゲンや薬の影響が心配だから」と、おなかの赤ちゃんのために歯の治療をガマンしてしまうママもいるかもしれません。でも実は、**ママのお口のトラブルは、赤ちゃんにも影響を及ぼす**可能性があるのです。

## 妊娠と歯周病の関係

妊娠中はホルモンバランスの関係で、歯ぐきが腫れたり、出血しやすくなります。これを「**妊娠性歯肉炎**」と言います。



歯周病の妊婦さんは、**早産になる確率が7倍**にもなると言われています。

歯周病菌が子宮に入り込むと、免疫細胞が過剰に反応し、**子宮の収縮を促す物質**が分泌されます。子宮が収縮すると陣痛を引き起こし「**早産**」や「**低体重出産**」の危険性が高まります。歯肉炎や歯周病は痛みが出づらく、気づいた時にはすでに進行しているケースも少なくありません。



## 妊婦さんが歯科治療をした方がいい3つの理由

**1** いざ出産という時に痛みが出ても**治療が出来ない**  
虫歯を放置していきざ出産となった時、痛みが出ても治療が出来ないことがあります。出産中は**力むため、歯を噛みしめる必要があります**。その時にお産の痛みに加えて、歯も痛いなんてことになったら大変ですね。

**2** 出産後に通院する**時間がない**  
産後は毎日の家事に加え、数時間ごとの授乳や寝かしつけ、赤ちゃんから目を離せない日々が続きます。なかなか通院する時間もなく、治療が後回しになってしまう可能性が高いです。

**3** 虫歯は赤ちゃんにうつる  
「虫歯のなりやすさは3歳までに決まる」と言われています。元々赤ちゃんのお口の中には虫歯菌はいません。感染元は**ママやパパなど、周りの大人たち**がほとんどです。同じスプーンを共有したり、ご飯をフーフーして冷ましたり、スキンシップでキスをすることで、赤ちゃんのお口の中に虫歯菌がうつります。

お口の中の細菌の割合は3歳頃で決まります。この頃まで虫歯菌を移さないようにしていれば、その先虫歯になる**確率がグッと下がります**。その為には周りの大人たち、特に1番関わる機会の多いママのお口の中のメンテナンスがとても重要になってくるのです。



## 妊娠中の歯科治療の時期は？

歯科治療の時期は**安定期（妊娠5ヶ月～8ヶ月頃）**が良いでしょう。歯科治療で使用する局所麻酔は、胎児には影響がありませんので、**麻酔を使用する治療も可能**です。また、レントゲン撮影を行う際には防護エプロンを着用しますし、お口周りしか撮影しませんのでご安心下さい。お薬に関しては、妊婦さんには適さない物もございますので、**妊娠中の方は申告をさせていただきます**ようお願い致します。

当院は越谷市の  
妊婦歯科健診実施医院です。  
受診票をお持ちであれば  
1回無料で健診が出来ます。

過去の外来通信・医院についてはこちら

